

人馬会所

旅人のためのサービスエリア

中山道の宿場町は、旅する幕府の役人に馬や人足を提供するよう法律で義務付けられており、これが「馬と労働力の取引所」とも言えるような人馬会所の業務でした。妻籠では、本陣と脇本陣を運営していた 2 家族がこの人馬の提供業務を半年ごとに交代して共有していました。通常、人馬会所は便宜上、目抜き通りにありました。

人馬会所の運営全体を取りまとめていた者は問屋と呼ばれており、問屋の下には馬指しという、馬とその世話係を割り当てていた者や、人足指しという、人足を割り当てていた者がいました。

妻籠をその一部に含む木曽地方は、年貢を木年貢、労働と馬で納めており、25 頭の馬と 25 人の人足を常時用意しておくことが義務付けられていました。人馬会所がこの地域を通る大名に適切な役務を提供できなかった場合には、木曽地方を治めていた尾張藩は幕府の機嫌を損ねてしまうこととなりますが、少なくともこの制度により、尾張藩は地元住民が各自の仕事に専念できるよう十分な食料を行き渡らせるようになりました。